

私のおすすめ

◎このコーナーでは、子育てや障害、認知症・介護当事者の目線から、普段の暮らしに役立つ「おすすめ」なものを紹介します。

書籍「中重度認知症の人の可能性を広げる 心を揺さぶるアートクラフト」のご紹介

本書のサブタイトルに「認知症の人の潜在能力を引き出し、『活動』と『参加』を改善するために」とあります。鎌倉市にある認知症デイサービス「ケアサロンさくら」を利用している中重度認知症の人と、スタッフの共同作業により感動的な作品が出来上がるまでの過程とその成果が見事にまとめられています。「認知症になっても感性は生きている！」が実感できます。

認知症と診断されていても、仕事や家事などがほぼ問題なくできている人もいれば、声も出せず、体も動かせない寝たきり状態の人もいます。認知症になったら何も分からなくなり、何もできなくなるのではありません。幅広い状態の人がいるのが認知症の特徴の1つです。

適切な治療やケアによって認知症の症状を落ち着かせ、進行のスピードを遅くすることはできても、残念ながら、大部分の認知症の状態は進行していきます。次第に重度化していくのも、認知症の特徴です。

また、夫の生死や家族の顔が分からなくなった人でも、「ふるさと」の歌は見事に歌えます。一般的には、記憶力・判断力・学習能力などに基づく知的能力は確実に低下していきますが、絵画・音楽・造形などの感性的な能力は長く保持されることも特徴と言ってよいでしょう。

◆本書の特徴

本書を開くと、色鮮やかな「さくらの木」「富士山のモザイク画」「コスモスの壁画」「落ち葉」「夜のさくら」「ポール・ゴーギャンの絵」の作品が目の中に飛び込んできます。その色彩の豊かさ、構図の奇抜さ、模造紙1枚分の作品の量感などに圧倒されます。しかもこれらの作品が、画用紙・ラシャ紙・絵の具・はさみ・のり・定規・はけなどありふれたものだけを使い、中重度認知症の人たちが中心となって作られたことを知れば、感動はますます深くなります。

本書の特徴は、それぞれの作品の製作過程を、豊富な写真を交えながら、丁寧に説明を加えていることです。これならば、どのデイサービスでも活動として取り入れることができます。認知症の人の潜在能力と笑顔を引き出すためにも、このような試みが支援の現場に広がってほしいと切に思います。

本書の後半は、前頭側頭型認知症の人、BPSD(周辺



今月は ⇨ **認知症の人と家族の会神奈川県支部**

がお伝えします!

認知症の人と家族の会は1980年に、神奈川県支部は1981年に発足。以来今日まで、介護家族の集い、電話相談、会報の発行、啓発活動、調査研究、行政への要望などを行ってきました。

〈連絡先〉

〒212-0016 川崎市幸区南幸町1-31 グレース川崎203号
☎ & ☎ 044-522-6801

毎週(月)(水)(金)午前10時から午後4時



症状)のある人、失語症のある人、ADLが低下した人、協調性のない人、不安の強い人たちが、スケッチアートの活動に参加することにより、どのように変化したかが紹介されています。その変化は驚くべきものでした。医療に携わっている者として、認知症は「治療」ではなくて「介護、それも認知症の人に寄り添った介護」が必要であることが実感できました。

著者は「私は認知症の人だからこそ、自分自身の世界を表現することに意味があると思っています。(中略)アートやクラフトの活動に参加されてからは、あきらかに笑顔が増えたり、自信を取り戻して、BPSDの症状が軽減する人がたくさんいます。私は、認知症の人に必要なのは、このような『活動』と『参加』の機会なのだと考えています」と「まえがき」で述べています。まったく同感です。

◆著者プロフィール

著者の稲田秀樹氏は、認知症デイサービスの職員、管理者を経て、2011年に認知症対応型デイサービス「ケアサロンさくら」、2016年に地域貢献活動を行うデイサービス「ワーキングデイわかば」を立ち上げ、認知症の人の「活動」と「参加」を重視した認知症ケアを実践しています。さらに、2011年には「一般社団法人かまくら認知症ネットワーク」を設立して、認知症本人を含めた地域活動を展開している、知る人ぞ知る熱心な実践者でもあります。

本書は72ページの小ぶりの本(定価1,500円+税)ですが、実践に基づいた認知症ケアの理念やヒントがたくさん詰まっています。認知症に関わる多くの方々にぜひ見てほしいと思います。

インフォメーション

「中重度認知症の人の可能性を広げる 心を揺さぶるアートクラフト」稲田秀樹著(株)QOLサービス発行